

DP（ディプロマ・プログラム）

DP（Diploma Programme）は16歳～19歳までを対象としており、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）が取得可能なプログラムです。「日本語 DP」の対象科目等を除き、英語、フランス語又はスペイン語で実施されます。

1 DP のカリキュラム

DP のカリキュラムは、以下の6つのグループ（教科）及び「コア」と呼ばれる3つの必修要件から構成されています。

生徒は、6つのグループから各教科ずつ選択し、6科目を2年間で学習します。ただし、「芸術」（グループ6）は他のグループからの科目に代えることも可能となっています。

また、大学やその後の職業において必要となる専門分野の知識やスキルを、大学入学前の段階で準備しておく観点から、6科目のうち、3～4科目を上級レベル（HL、各240時間）、その他を標準レベル（SL、各150時間）として学習しま

す。さらに、カリキュラムの中核となる核（「コア」）として、以下の3つの必修要件を並行して履修します。

グループ 1

言語と文学（母国語）

科目名：

言語 A：文学、言語 A：言語と文学、文学と演劇（※）

グループ 2

言語獲得（外国語）

科目名：

言語 B、初級語学

グループ 3

個人と社会

科目名：

ビジネス、経済、地理、グローバル政治、歴史、心理学、環境システム
社会（※）、情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、社会・文化人
類学、世界の宗教

グループ 4

理科

科目名：

生物、化学、物理、デザインテクノロジー、環境システムと社会（※）、
コンピュータ科学、スポーツ・運動・健康科学

グループ 5

数学

科目名：

数学スタディーズ、数学 SL、数学 HL、数学 FHL

グループ 6

芸術

科目名：

音楽、美術、ダンス、フィルム、文学と演劇（※）

（※） なお、「文学と演劇」はグループ 1 と 6 の横断科目。「環境システムと社会」はグループ 3 と 4 の横断科目。また、「世界の宗教」および「スポーツ・運動・健康科学」は SL のみ。

上記 6 グループのほか、必修のコア科目として、Theory of Knowledge(TOK、知識の理論)、Extended Essay(EE,課題論文)、Creativity, Action, & Service(CAS、創造性・活動・奉仕)の 3 科目が配置されています。この 3 つのコア科目の存在は探求型学習と全人的教育を強調する IB 教育の大きな特徴といえますが、日本の科目では対比がなくわかりづらいと思われるので、内容について以下に補足します。

課題論文

(EE : Extended Essay)

履修科目に関連した研究分野について個人研究に取り組み、研究成果を 4,000 語（日本語の場合は 8,000 字）の論文にまとめる。

知の理論

(TOK : Theory of Knowledge)

「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する。批判的思考を培い、生徒が自分なりのもこの見方や、他人との違いを自覚できるよう促す。最低 100 時間の学習。

創造性・活動・奉仕

(CAS : Creativity/Action/Service)

創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬での自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。

2 DP の評価

国際バカロレア資格の取得には、DP カリキュラムを全て履修し、外部評価（国際バカロレア試験等）及び内部評価を通じて、45 点満点中、原則として 24 点以上を取得する必要があります。

配点は、6 科目につき各 7 点（計 42 点）。さらに、必修要件（「コア」）について、T O K と E E の評価結果の組み合わせに応じて最大 3 点が与えられます（C A S は評価対象外）。

国際バカロレア試験は、南半球と北半球の学校年度に対応できるよう、年 2 回、世界で一斉に実施されます。日本の 1 条校の場合は、原則として 3 年次の 11 月に実施され、翌年の 1 月 5 日に最終スコアが通知されます。なお、国際バカロレア試験の出題例（サンプル）は、以下リンク先から閲覧可能（ただし、英語）です。

3 日本語 DP

DP の授業・試験は、原則として、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があるが、現在、文部科学省と国際バカロレア機構が協力して、DP の一部の科目を日本語でも実施可能とするプログラムの開発を進めています。

日本語 DP 対象科目等

日本語で実施可能又は実施可能予定の科目等は、以下のとおり。

- 以下の科目：

「個人と社会」（グループ3）のうち、「経済」、「地理」及び「歴史」

「理科」（グループ4）のうち、「生物」、「化学」及び「物理」

「数学」（グループ5）のうち、「数学スタディーズ」、「数学 SL」及び

「数学 HL」

「芸術」（グループ6）のうち、「音楽」及び「美術」

※日本語 DP でも、6 科目中 2 科目（通常、グループ 2（外国語）に加えて更に 1 科目）は、英語等で履修することが必要。

- 「コア」（3 必修要件）の全て：

「課題論文」（EE）、「知の理論」（TOK）及び「創造性・活動・奉仕」（CAS）

※日本語で実施できる科目等について、日本語に翻訳した科目ガイド等を以下リンク先から閲覧可能。

（翻訳している最中の科目ガイド等もあるため、翻訳対象文書の全てが掲載されているものではない。未掲載の文書については、翻訳が終わり次第、順次掲載予定。）

[国際バカロレア機構日本語ページ](#)

スケジュール

日本語 DP による IB 校の認定スケジュールは、以下のとおり（最も早いケース）。

- 平成 25 年 10 月

IB に対し、最初の日本語 DP による候補校申請

- 平成 27 年 2 月頃

IB から、最初の日本語 DP による IB 校認定（同年 4 月に 1 年生入学）

- 平成 27 年 4 月

一部の認定校で、2 年生より日本語 DP 課程開始

- 平成 28 年 11 月

同校で、3 年生が国際バカロレア試験を受験（平成 29 年 3 月卒業）

※ただし、地理、数学スタディーズ、音楽、美術については、平成 29 年 4 月に 2 年生で日本語 DP 課程として履修可能となっており、平成 30 年 11 月に 3 年生で国際バカロレア試験において日本語により受験可能となる予定。

4 キャリア関連プログラム（CP）

CP（Career-related Program）は、16～19 歳までを対象としたキャリア教育・職業教育に関連したプログラムであり、生涯のキャリア形成に必要なスキルの習得を重視します（2012 年に新設）。一部の科目（”振り返り”のプロジェクト等）は、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

CP のカリキュラムは、学校がそれぞれ提供する職業教育・キャリア教育に柔軟に対応できるよう、「枠組み」を提供するものとなっています。

CP のプログラムは、以下の 3 つの枠組みから構成されます。

1 ディプロマ・プログラム（DP）の一部科目

CP では、少なくとも DP の科目（グループ 1～グループ 6）のうち、少なくとも 2 つ以上を履修します（上級レベル、標準レベルの選択・組合せは自由）。なお、日本語 DP 対象科目を選択することも可能です。

2 「コア」

- 学習の方法（Approaches to learning）

批判的・倫理的思考、異文化理解、コミュニケーション能力に焦点を当てた学習。90 時間以上の学習。

- コミュニティと奉仕活動（Community and service）

教室外で、コミュニティにおける奉仕活動に取り組む。約 50 時間の学習。

- 外国語学習（Language Development）

最低 50 時間以上の外国語の学習。

- “振り返り”のプロジェクト（The reflective project）

キャリア教育に関連した特定の課題について、倫理的な観点から検討を加え、教室内外で約 40 時間の個人研究に取り組み、調査やコミュニケーションスキルを育成。

3 キャリア関連学習

CP は、各学校が行うキャリア関連教育を支援・補完するために開発されたプログラムであり、キャリア教育・職業教育は、各学校がそれぞれ提供します。

(リンク元：http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1308000.htm)

DP は、PYP、MYP と異なり、科目ごとのカリキュラムが IB から提供されています。これは DP についてより詳しく理解を深められたい方は、こちらの IB 公式ホームページ "[Resources for School in Japan](#)" に、概要及び科目別のガイドブックがありますのでご覧ください。

- IB とは
 - PYP
 - MYP
 - DP
- 日本における IB 教育
 - 国際バカロレアの推進に関する提言等
 - 認定校・候補校
 - IB を活用した入試制度
 - 各種支援